日用心法鈔

上

ロ g
1303
1

門口七9
1.303

世の中よこうの大事わり動発と忠孝と情くあり動発働くこと人間第一の宝なり動むれば一生送り安く是利徳の根源なり動わて得るハ眞の利なり動わと忠孝と情むとの中より孝ハこゝろと知るべし又顕ひの秘密傳仏神三道のことわりてゆく大入用えて寿福楽をゑるものとまなび

平假名絵入

日用心法鈔

上中下三冊

東都下谷金杉

寿福軒述

文政十丁亥年正月

序 例

世をくらすに三つの大事あり。勤めと忠と情なり。勤は
働く事は人間第一の宝なり。勤むれば一生送り安し。万事の利
徳の招えは勤めて怠らざるの利と勤めざれば人間の交りも
おろそかなり。昔の大徳といふも。内徳だかりはおろそかもよく
勤むれば成り。世三つを知る時は身を脩め家を斉へ社
会を辱しめざるに勤めと忠と情なりこの中に忠孝ありこの
ふとしたるは又高ひの秘密。儒仏神三乗の業ありて四
大人用ひて福寿を増し。子孫長久の計策なるべし。

世人を見るに此の如く地位なれども智恵ありといへども聖賢の教へとなれば甚智恵せまし。
たとへば閻中の寶玉如し。燈火なければ甚寶ひとなる事
ありがたし。あるときは身と脩め家と斉へんと欲する
人は。あらかじめ書とまなびし。孟子は孝経書の寒郷の文字と
をしへ。さくらぶりの子のすむ所を書よ。
詩経曰。先民言ることあり。匍匐救ふ詢と。世人は智恵ある人にて
菊人蕓者のいとなみとピよる事あれば取用ひ行へ
いふ中也。見い智恵と十分ありとせば徳と増と

志ある人のなぐさみ。賢人君子の言葉かくの如し。それ子仰ぎや。高堅。瞻ては前に在り。忽ちに後に在り。

性んでよきらと習ひ移べし。古方に

○いつの人のうるさいや。記憶でなく。唯能く拘はせる

和僧陰隲録に曰。史玉い孫らざんだ。石屋の同志あり。人倫

間。仏に帰志ある人孫らざる玉ある。如し。君たるの道

ざんぐ平生の愚人あり。方便の善志ある者とスベきこと

学の導べ。

弘法大師一代記。如意寶珠の元徳とある人賊とふ。カ

わんぐ。高幢の上に置きたれば。甚用と為さ。心性千

万徳わんぐ。秘教ふ。ざる事。邪。是如意

宝珠。紙とふ。カわんぐ。甚ふ。ぐ。備とせ。

ふ。ぐ。人間。扁。この万徳と備へてもれぐ。

わいさんぐ甚徳。やぐ。ぐ。君子教に随て。

甚用ひあるぐ。是君子也。意結和尚の所ま

○通ぐ。言すぐ。ものぐ。ばやぐ。ぐ。

善言とやて恢ぐ。ぐ。音ぐ。ぐ。

言とやて恢ぐ。ぐ。ぐ。

耳にいくばくの人を於てか。もやの如し

○倪法の心の花の。初めて。その実となるが人いまだ知らず

仏の卒爾の言葉。ゆえに。福徳の言葉と侍るべし。福徳の言葉と侍るべし

人まことに人法とあり。那ぞ。ばくの如く。教無の言葉

あり。悪業の悪行も。仏道理と志うと知れど。甚和の実は

皆悟りとなるべし

論語に。子曰。吾嘗終日食せず。終夜寝ねず。思うて益なし。

学ぶにしかずと。仏言いまだ升りて学びざる人の為に

説くの言葉寝食と忘れ。心仏昔未だ生まれざるいにしえ

是文を益なし。呂教くに随て学ばずして聖人孔子人

かくの如し。況や甚仏の人を於ておや

仏書に曰。三界の内と。心の一切は法に依初の縁

を業のとなりぬ。心の一切は法に依初の縁

縁にて未来永劫の縁を安んじるなり

○一切の。ものは。ものに依りて。ものを。仏の縁のことを。かする世の人

又前に

○彼岸と。ものは甚身の世。ものに。ものを。世の人で

死と笑て。ものを。世に安穏。未来に善悪の報

農
士

工
商

あるべし。人すべき業なれば、稽古せい掃除をして来せいと、方悪類あるべし。

業と決めんとの方百音の中に

○甚だいとしもなこと多あるべしの路通あり。

○智いつも見てこと多しん智いわざるを言葉いつい葉ちあるべし。

○部と拾べ人ふ拍同智ふこと。後いこるの墓ひ所ふ者を

文政十癸歳　東都下谷金杉

正月吉辰　壽福軒眞鏡述

明治四十年一月廿五日
中村健氏寄贈

日用心法鈔巻之上

文動先働く業の人月半の寒あり動むんで一生遂
安動の移べ和の上を換とべ又苦るを志むとうべ
邪動の移べ和の上を換とべ又苦るを志むとうべ
然放ふ動先働く業ん識を身を備あ家式とべの
國と治べ天下と保ん根源べ又動あざんで人宮に交べ
わべ昔の大徳べいべ也徳べにおべ
動むんべあり。禮記に曰。甚信る處べて甚業を履べ
道べ則孔あり。文選に曰。道べと嫌べ者べ者るあり。べ

たゞくじ人とある。世界に信心を尽くしいつかと道とあるも
いつの長崎おのれがたゝもぐることとすゝ動もとゝいつく
大悪の命にて
○動く延に窮まり出て延てゆくのらくゝ者のおくさまらく延
○世の人のくどき出のゝ延あれ福ひ出ると出て書
○福徳と形ぐんぐんる業とくげあり福と業こまる
○而の足ひ拾ふさあくと福と神給ふ人ぶえまり
○あくさ拾と出ると家の足ひ拾て情もゝ人と悪ふ成ると
○すくと出ぶ身ゝ動むれふ福ふ間鬼や貧ふらあく通行

福の神ゝ命にて
○自ふ忠神ふ孝行とる人はつのゝどくゝて福寿わくえん
貧乏神の命にて
○貪欲ふ為て泥ふ朝寝ぜひつのゝぶくと神やるゝん
一体の和合同善ふ
○怠ふひつゝの果ゝひゝに家業情出ると心ゝくさ
○働ふ係と働けて為たくゝ又働人やゝふ名とあれ
○惰怠輔ふあゝたらふ先たくら情と出せひ貧ふ薄
世界の中一句取果ひあひ福徳と出方のとものあり

とゝに学ぶ人たゞひたすら自分のもとゝなる天命成就のこゝろく
あり。是こそ篤と味ひて出精もべし。一ぱいよくばかりより
極徳ふかくもとして。銭金ばかりまんべんなく。小人たるこの名栄に
執着しこの生涯あり。べらぼうもべし。栄と貴一ともうすは小人の職
分あり。是ばかりにてうせべくこゝろと先こゝろを。身と治え家と
こゝのくあり。其中に君子の勤めべし。是若年より。又勤め
働くべし。小人斗りにわるべし。大人君子いくべし。勤めべし。
身と修え家ひ治めべし。天下と治めべし。勤めるもの。
大人君子いくべし。福をいたゞき長位より甚位に居ることなり。

大小ともに勤め働くべし。生れし天の命ずるもの。人間たるものゝ
あり。一切の福徳を勤め働くべし。生ずるもの。勤め働くに
よりて。此世間もたゞ若相と云。生ずるもの。絶倫絶類等。
業の油断なるの出業べと云ふ。此世界を乱れ。
皆家職とす。勤る所のこゝろ。
福なり。大人君子いくべし。勤めざれば。
福徳と云ひ。甚位なる所ばかりが。
勤て得る所の利。是の利。
おのゝすゝめ富貴となりて。安心ふ世と治め。日々に盛勢

潔し。あひ宰も。遠く成れもそむ。俗にも。舌とをる人に舌人
あり。俗にも。悪をする。人に悪人あり。とも。悪人悪子孫も。
悪和とも。悪の仇ひのもの仇とをる人に。兇悪帝あり。
禁対の。仇ひの高仇をもる人に。兇禁対の悪人あり。との仇。
悪の悪和をする。心中にうるべ。表をする。動くといふ。
安人。以下。問人の言葉を汚さべ。表をする。動くといふ。
仲間うちをそむ。世界をそむる。表をする。動く人に舌人の
ある。あし。和相談。ざれ。問人熟せべ。仇栄し。言ふ
○ひとさしに。浮世をだめも。言ふ。身を保つ。この親ひ。あり。

○江戸。後。河。たく。人。所。ひ。あり。とかせべ。遊。つ。義。ふ。あし
所。とす。考。て。動。働。この利益。あり。ひ。ふ。べ。又
万事。にけて。人。ふ。ら。を。就。兄。弟。の。仇。偏。一。家。門。の。仇。ひ。
わげてうべ。の。屋。べ。又。動。ひ。働。ひ。たる。人。の。安。人。の。為。て。安。人。
あり。兄。と。城。の。樂。と。又。弟。の。情。ま。べ。動。兄。働。て。この。せ。べ。
ふ。べ。安。人。を。好。む。ひ。の。中。に。居。て。おつ。ふ。と。嫌。ひ。水。の。中。に。居。て
ぬ。と。嫌。ひ。如。て。変。て。出。者。ぬ。て。あり。義。苦。し。
日。月。ま。ま。者。りて。孫。る。弟。と。そ。べ。就。兄。弟。の。仇。偏。一。家。
門。のあげ。揚。牛。屋。べ。ひ。屋。ばりにて。安。人。の。

苦のことわりをおこすなり

○昔のわかき人樂をのみ好りてそれ〳〵に是ひとくてて家職をいとなむ世
世をのんびりとくらして勤をおこたり嫌の
あるいは是によりて家業をおこたりの勤めを捨ぬ世に浪
雜〳〵家業出精をさせ渡り雜ことのあるゆゑ世に石
雜ものとなる雜家雜造をいとなむ是によりて世家業
はなれ間なる者多く出精をすぐる者多し若者を勤めぬ人
先人写しらいひがて富す仲間あり可
○牛馬は常牛なるとはなれど人とをなれ人とよくれう移ぬる

○中〳〵に富せあり〳〵万物の色亜仲宮の新しきことを
ひらく相遠あり。牛馬は牛馬と有ひ天地の用ひあり
なり〳〵戸とまりり。新しい樹とは〳〵世界辺のかしこ〳〵
くるとん〳〵の用ありいなんや万物の垂たる人間に天地の
用をあらくく善の半〳〵ものく。家業と余所る見て
ゆゑ陽をあ物見拾山と好〳〵。手足と安像よ〳〵て矯〳〵
長ぶるあるいは天地の間にあるを半〳〵人宮の境界にあり
万物の霊をいあ〳〵為牛の手ひし成て天地をとる
とのこ〳〵宮にいのり〳〵て。母婆ふるげこ〳〵とのあり

凡人は、るゝぶる事を好んで切まん我慢張りかりにも人と
すけるこゝに嫉ひ人と爭ひ我と事を好む是は世の中の
騒動と引起す有こゝろ有こゝろ有こゝろ
こゝとうゝる大罪人なり。爲る首に切て捨るこゝもおそるべ
きこゝ。夫こゝと大用なるこゝ。世のこゝ慈悲なり。
其間にも。心に改めて家業を出精こゝ。吾事に掛こゝ。其
人の仕合なるべし。若其他のこゝ。
事こゝ一命なるべ。乃ち廣こゝ。考こゝ
是氏長秋保養の源。流水腐こゝ戸樞こゝ

秋こゝ流れ川こゝ水こゝ流こゝ。こゝ水こゝ
なる。なるこゝ。なるこゝ戸口こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ事こゝ人間の其通こゝ。動こゝ。働こゝ者こゝ健こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
乃こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
○長壽こゝ。福こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
福田吉仙養生七箇可辨こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。

宋あり。血流の停滯と化して一分間流通せざる止まるが如く動作を悪く安逸となる
ぎること川水の止まるが如く動作を悪く安逸となる
む時は血流の清らかなるものは常に不潔なり。気もうつ
りて閉塞して百病となるなり。動作をすぐれば
血気の充ちあり。無為なる徒拙はたらくで久敬せ
ずして居れば甚だ病を生ずるなり。下の方已まが體の
壓れて気血の流れ悪敬甚だ甚だ麻痺して自立なす
甚だ甚だ長生遅速あり。樂しむ者は長生なり。
宋 かはるべきもの。甚だ常の閑なるとのらるるこの。

特病人の家ならば甚だ多くは。麻痺をなるあり。
甚だ多くこのり。又長寿なる者とうんうふ者はいまだ
ちて動作とさるべき常に陰んで変動すること
ぎるとこと。無人者なり。恐まで稟受さく強き人
あるべし。会は変るるるの動作とさるべき変動
まで血気の薄らぐ。長命あるとのこと人たりこと
見る時は動作と変動この二宋はまと表上の変一あり。他動
にて長寿の者とそこに変ひあり。動とく猶
寿と称円如変人とあるべし。人間一すは他会の高

分とはあんじゝて明日の病れをとゝ思ふまゝ
会ふとも安心は傷を次第に五千年の苦労をせんより一日
の楽義を揚んたるにあらず思ひ昭系刑罰はあつぶ
あぐ〳〵盗とる者共とおこなかれ甚情いわれずしるべし
かゝる人のしんにに逆ものを来い出る屋〳〵又書ぜを作る
短命のもの〳〵こゝに命〳〵
○老の身は養ふ〳〵とぐ〳〵もこれ水に月をうけてこゝに氷〳〵
又養ずの命〳〵〳〵
○会ふに呂能形〳〵げて暖くふたゝ〳〵ぬわ〳〵に業にもます

○酒とてもすいぬ程みて慰ひきるくらをのべて気いくすふあり
○わきこゝもてきをかつち卯ハ腰いつきこゝつきま後は癪聚出来ん
○納涼も又みぐりりのゝ〳〵元もぬれバやゞて病ひおこきり
○初めるとて枕の方〳〵亞夫鉄さき君の風ハ既ばたうとゞ有る
○年くぬ老の長風呂汗たりて風いりぬれて日〳〵引ばる
○春菜たのゝ〳〵ぬりけて伯だゝ〳〵も怪まぎれバその甲斐もおし
○菜をゞ兼てを栖ぬ又奇くゞれを去るしまたのむべきあり
世命を考へて長寿みあるべきを陰をつゝきぐし
綱は曰多食に五の苦〳〵きり〳〵ぬ大仮の致多〳〵二ツにハ

少後の教育〳〵ニテハ睡眠を増ケラニハ身体を壮ク志て健形
み急ク為ニハ食消化せざるべからず〳〵ハ指ス〳〵ハ〳〵ハ
おり呉ル和遠おしへ〳〵考ク動く
心学五倫毎ハ〳〵ハ拙ク〳〵世界出世ハ志身
を安〳〵ハ〳〵ハ病起ル働けば血脉流れ通ドて病起ル
樞の考ハ朽ぎるが如し〳〵又出雑ず死の業ハ〳〵ハ〳〵
といて呉又大ハ世ハ〳〵世の動えさく拙ぐさ
人ハ中〳〵後世の健形をるとあるべ〳〵ハ
一通りの気性にてハ中雑〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ後中より隙を

ぬきんて俊義寺第り後世のいとあ〳〵ハ何ぞあるべきや況ハ
自力聖乃門の健形おどろ存もす〳〵ぬてあり出雑ず死
の常〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵ハ方代不易の名言〳〵世の長年
をいと〳〵あるまさく健形者とおれ拙のたらてんよりさく人ハ
乃おとてにあるべ〳〵ハのくく〳〵ハ〳〵ハ人の出来るてる那べ
ハ〳〵ハ〳〵ハ世を移ぐとつよハ〳〵ハ働もあるてん後〳〵ての上
のてあり中〳〵あすけ老の乃おとてよりべ〳〵ハ呉ようハてけ
世の長年をいと〳〵あ〳〵ハ又後世の動えさる人ハ急交那ハ
べ〳〵ハ一通りの長人ハ〳〵ハ〳〵ハ長年成営む人ハ先を考ク動く

老角田出家い長命あり。彼宋のよう仕業を。老切にして
あるべし。長命よりさて。後世の道にも人世の為にも
なるべし。彼宋の出世も。老命よりあるべし。成就さぐらべし。是
みよりべし。是〇の時より。分れること大宋あり。人〻怪しむ
京侍がいろいろ。人間一すい孫の如し。一休和尚の為
〇門松いやしいどの乃ち一里塚。やうんともんどぞんの迎ばし
やう。是より遠近。人目の一すい孫をもるやうおとものごとしたん
門松。是別ち一里塚あり。是の連者あり。八十七里八十里百
里もこのべべ。やうべべ。分の業生涯よべべ

是ごとく丈夫あれば。いろいろの長生もいい孫が出来ようべる。
悪い間よ。老角通るべべ。ちらべべ陸奥の国べべ
つ程板よ。ちべべ分べべ。老里の立場よ。居つべべ
ろ。老信濃の測べべ。ありて。所べべ。出べべ。
べべべべ。居る間よ。ゆ千の坂を越。五千の立場べべ。
べべべべ。老べべ。ありべべ。老聲。老嫁のべべ。
附嫁べべ。分べべ。べべべべ。老井村。べべの里べべ
べべべべ。老角べべ。枝べべて。掃べべ。老の
坂べべ。べべべべ。べべ世の業べべ。

されどあるべきなり。是は遠方にあり。若い者は死と有よ。

○若き時は家元の業をよく〳〵学ぶべし。胸中を広くかさんて居るといつの世かと忘れまじき事

是は極楽別にあるべきにあらず。若き時より老に成て後極楽あり。あるいは地獄極楽人々の過去にて。

今現の法事と朝夕仕らせば。ゆくゆくまで飛からく〳〵さの

の様ひと今日迄せば聖人の未来が安楽ありさられば

有為転の天道極と実れば如のお用極も所詮体むと

をあ〳〵是をもてしまて家業を生情をべし。繁昌

服部あり　是は世界のくでいふたりあり
未来の地ぐ〳〵極らく〳〵別限あり

天の考を先ぐり〳〵ゆくすべく是にのみ〳〵て常

に動めてやまざるべし地の考をとぐまりもづうるまてゆくべ

人是をのつとりて考る悔〳〵心を動て半あれ動めてあ〳〵

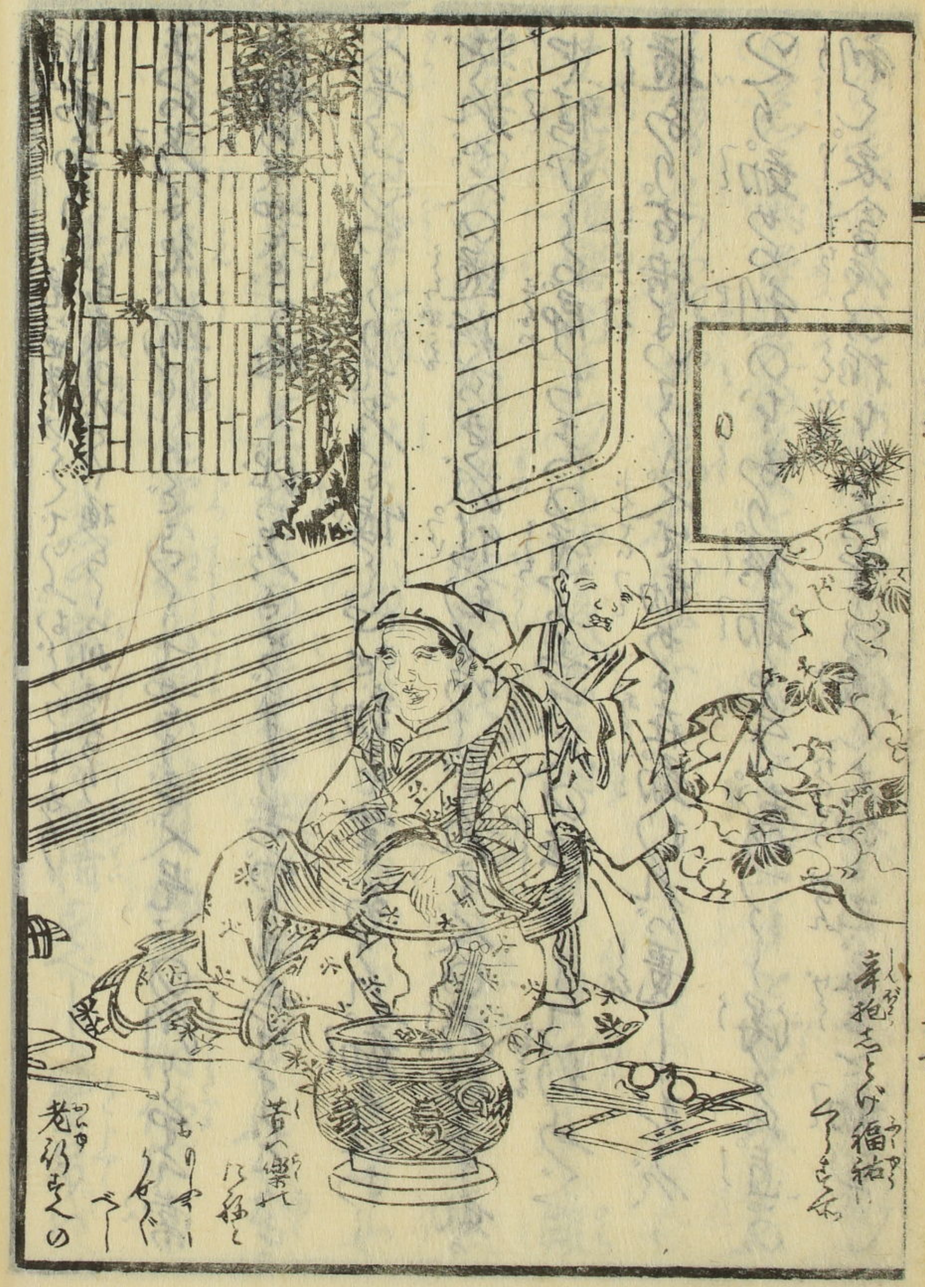
ぐれば人の道行はまべ信もしるのべざれば人の尽たるを動る

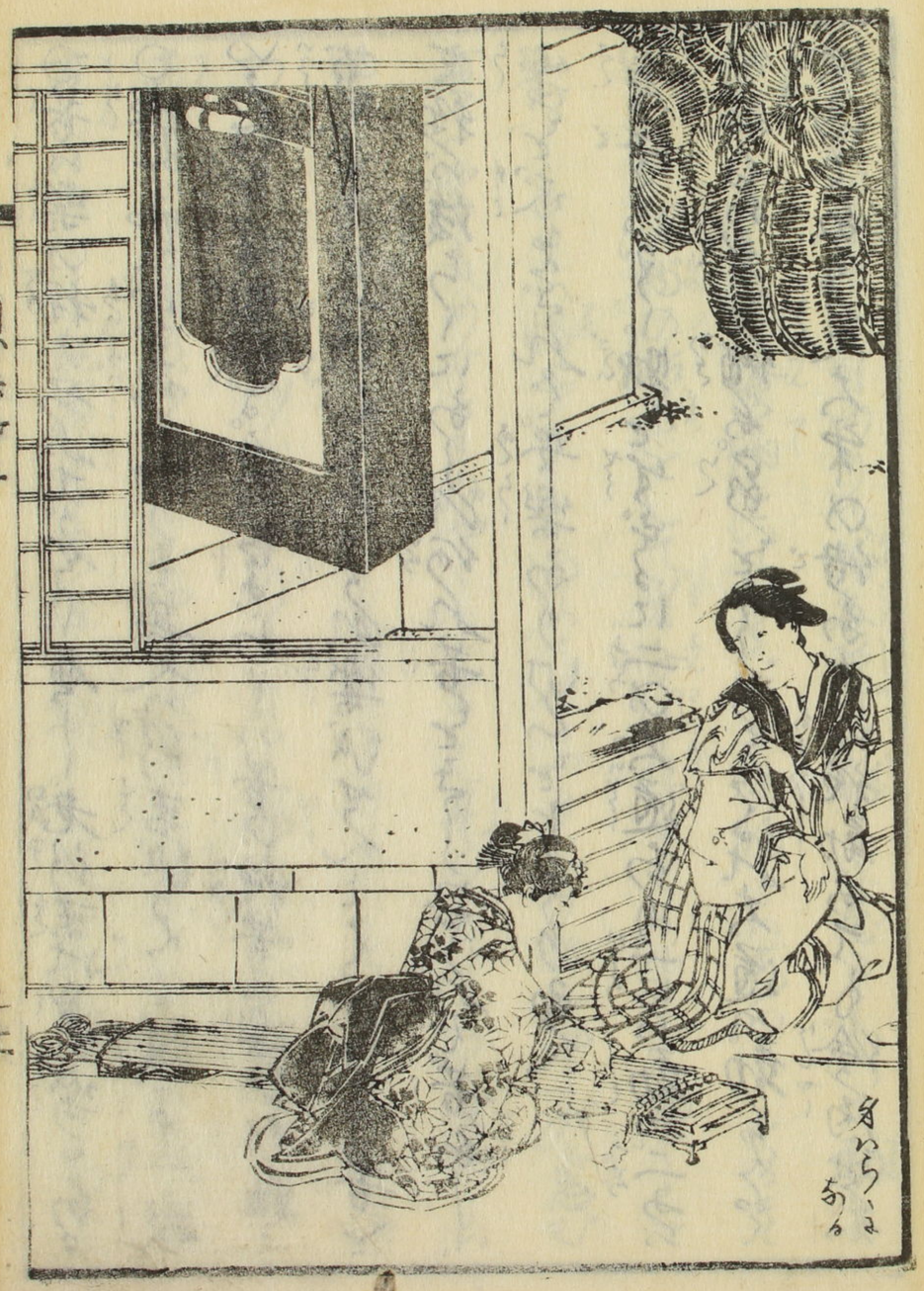
や信むとは即ち天の道ふまて人の法とし行のべ

道あり。古語にいへ〳〵人生動める在動むれば遺〳〵かべ

いとり動めは利のなり。後動をてものづ〳〵得るは近の

利と。衣食住の根なり。大半の後に。大切は己が業を動む


辛抱さへすれば福徳
貧人樂れ
ものやう
老行末の


身いらこまる

○昔の樂の稽古をつとめて屋敷に老行未だ樂のあるを
○樂を志て栄亮よくを甚人の行末ひとつ紙る一枚
いろはの字教訓の字ら〳〵の昔の稽古の樂のたゝ
古くよりいつ続むぐあるれ樂ひせんとするに昔と
せ移ぶ後ら〳〵にあ〳〵ひのれ昔とさ〳〵ぶんで昔あ
樂と求ぶんで安樂あり心をとり動
意倍よい〳〵財をすぐるに二の大道あり一に動二あり
倹ひ人ら分を備ふ家とし〳〵のくるれ大道に動ふ
倹約とあり足大事の倍あり倹約動あても倹約と知

らぶんで甚ぬけ目ありて物毎慾人雖〳〵意よりて動ん
と出〳〵て〳〵て倹約とるくぶ〳〵倹約ら〳〵もるて
ぶいわ〳〵ぶ物の始末として分相通るもる事く物で〳〵と
ものく〳〵もるい惜ものく〳〵あるくぶ物とやぶ恵む
屋と事ぬ〳〵の事く是ら知て倹約ら
物事と花美ふぶもく〳〵で成ものすく〳〵もるく〳〵得
わぶ〳〵統日動め〳〵て夕ぶるふて。学れ住むは易の教
天道いひ変ぶり〳〵てやぶ是とふと志て動む
古人いはく記ぶすい孫て動〳〵人に甚志〳〵ち。

古人の朝早く起るとて家の
用事とするとて古人の云家の盛衰の高下貴賤
毎朝起るこの迷惑なりしかり。朝早く起る時高貴
卑賤貧富身分貴賤あるとて
例とおしらく貴賤病身にあるとて
老人の云毎朝一時早く起いで一ヶ月に二十時あり。六時一日と
して一ヶ月に五日一ヶ年に八六十日の日数仏慶あり。日数
家賃の勘定。給米掛り拾ヶ。たくゝ職人一日の手間
賃。こゝとして一時五分ツの仕事とゝ

より六拾文迄賃銭徳潤ある八十七貫八百五拾文
八年ゝ 但一ヶ年の和潤一銭より。右の新職人は
毎日の朝の利足ゝ
日ゝ起。新而作と動いで実加ふ時ひ後業ふ日ゝ半潤
銭の利足に新ゝ。ひの給米給ゝ除慶を祝て困
窮の人は祝ゝ法徳あり。貧銭業繁る銭ゝ。人は苦労
と物ゝ。利足銭ゝ。あり。陰徳の除慶後業ふ孫ふ日ゝ
半。特利足ふ人たり。日ゝの給米給たゝゝ毎日拾文たゝ。
酒のゝいふ。六文ゝ減じ。ゝ文ゝ除金いふ日ゝ
文迄の潤ゝ銭七百二拾文ゝ。六百拾文ゝ。 但一ヶ年潤銭毎日ゝ銭の

利足の秘見者とん得遠ひ〜て悟畜にて溜たる財宝て患
難〜て滅亡するて〜必悪あり財宝を絆んより陰徳と
積屋〜〜いくり
系伝の書ぴ十六利動略編記。朝森換右〜いつもりぎられい
る者のるるの宮びの書者て換徳の換の宮とう〜ぎて人い
一人の扶ぴ〜より用て一生の中ぴ〜〜お換のゆるて〜ぴ十六
書集ぷて更ぎら換ぎやと号ぎ逆〜のぐ
たり一生ぴ換ぎるやに一人とう〜扶財ぎちひる利動
見け系伝の十六利動〜名ぎ〜〜るゆうんあり。彼朝森る

者の教くるぴ丈人の家ぴ繁昌ぷ家伝記るてのあるを通
ぎ〜ふすうぎにぎ家屋のガワタリ〜からやのチニカラ〜ぷ
財ぎ〜〜用と覚〜〜馬ガガアトあぎ紙ぴ元ぎひと知ぎ
ほくる財ぎぷ必ぎ折ガまぎカツチリトい〜ぴキツカケに記ぎ物て
系ガ西と合て転〜〜かやぎ財い甚ぎ大きぎる徳あり又
財夏〜〜ぴ者ぎ〜の系る財ぎ逆ぴ号とひきぎ用て
う〜〜愛ぎて居てぎぷぎふ玉扇とかぎぎて〜て義ぎと
拓〜はぎ〜免角朝森い換右行ぎぷ〜記てうやげぎ〜絵
行〜〜馬と半〜て朝森の元ぎ流愛〜換ぎぷ〜

ゆいてあるひて朝長の兄丈ばかに用とをゆさをよばゞ田町よ
ごろう法師さんのいはゞ言にゆすぐ用ゞさめんゝゝ打捨ゞ
捨てゞびまてうをちらもゝ有り
ある所よ年始の女帝田うんて居て縫物の出来ぬ所ゞお針と
用雇ひして毎日〳〵来るゆ打おくりと言年ひゝて。
時〳〵いひたのり。彼も針を分と最〳〵のおてんゞ有あれゞ
腹とたらゆんぼ其長よ利口おとゝびいひおゝ用ても縫物
のゝゝ稽古ゞ用と出来あゞ。芳ゞよしひて来り。
てんおてらゆたゝあいゞ打ちうゝ出来おさいゞゝとうゝ

逢ゆ出てゆけゞ明ひ有のゆ用と後とうて。彼のゞと一ゞん。
縫てえもる者よ有りゆ。時方に彼男の来りしゝ蛍
お針ゞかゝゝいひゝたうゝ用と後ゞうて有りい
あんだりゆ新〳〵いせんゆ有とうゝいゝ切てゆうゝ記て
縫かうゝトサ。世女いゆりて記ると朝ゆ〳〵おさたとゆうゝ文
みてゝいゝゆ九ゝ用ゝ記ゝよ新ゝゆ。美麗ゆ一九用ゝパゝゝ七
つ用あんゆ人ゝ病室ゝ遠くたるとゝのゝゝ。彼ゞ人習
仲間あんゝ編にゆ夢みとからぬ人有りゆ。彼よ○朝長て。
病行ゝ迎ゆひゝ行て新て居ゝ男ゆ居行ゝりとゝる

やういつの人あるべしとて孫彦ひろ孫彦ひろ孫彦ひろ
と相ゝの物ゝたる。疫ゝあるべし。世界ふうやの喰つぶ
多ゝ。呉服穀ゝ。いつ。茶と喰出よたくたり。
如と更生とにて。二三百両ゝかるべし。毒ゝ。
のとり人用とある屋ゝ。甚ゝ。
たゝ三人雑ゝ。金とうけたるくで又喰ゝ。
置人よ百あるべし。金銀のすゝあるべ
僧ゝ相ゝ。ゝのとゝて世と安ゝ。深ゝやゝの
仕ゝかゝ迷ゝ苦ゝ。身りて甚ゝ身とさゝ。

相撲くて、紙道の弓屋、一家一門相続のとて女房とすぐ。
安心安樂、心元の弓屋、ゆるる、ゆるる、
見を深く考くる
馬が所アしゐ、飛起、鶏が時とけば、鶏が行とする時、
無と仕鶏が鶏と、しゐり、考ぶ、油揚と目がつると、皆、
家業にて、馬でき、人の拵、
行てもの、家業の半、警が鶏と行、
ひ、見ぶ、人の家業、宝蓋とうつ、
疫道のそ、いあ、雑而山坂と鶏ふが如、宝蓋

かもう行ぶ、雑、雑、商業の乃ち、隨分、
屋、毎日の如、家、花が使れ、月、徳分多。
家業、別が所、仕、汗、時を油引、
この、人石丸、別、尾、
ふ、ふ、当の出、ふ、ふ、雪
強、ぶ、ぶ、拵、ふ、ふ、佛、人出、着、
ふ、ふ、ふ、

あんじゃの愚人と教ゆるにはあらず。ぬのかるこちあり。べく仏道
ぬるの業とおりて。あんなの。ゆくあり。て。働。てあれ
一切朝夜の気人を告。と。人。より。役男。仕女。いるまで
朝起てよ。と。ぬ。子。に。愚。及起。べ。べ。人を起。さ。ん。ゆ。ゆ。れ。こと
みて。おぬ。不。ひ。起。寝。ち。る。人。仏。が。す。て。て。も。取。よ。た。ぬ
人。あり。用。に。立。ぬ。人。あり。し。式。智。者。ぶ。い。る。ん。し。ぶ。乃。遠。ん。
あ。と。呼。し。あり。拙。ら。ん。と。た。ん。と。る。ゆ。其。通。り。あり。思。れ
怪。んで。朝。早。く。起。べ。し。あり。
○朝。ふ。せ。り。ぬ。る。ち。ん。て。。徳。い。お。。病。の。起。り。用。と。ら。せ。ば

○ちと。く。病。て。ま。く。起。る。の。ぬ。る。と。ち。ん。の。ぬ。人。よ。一。代。の。徳
業。る。あ。る。物。と。い。ま。ま。て
○朝。起。ゆ。ま。と。働。る。せ。ば。食。る。ゆ。ば。親。を。ま。く。く。。。。。。。人
毒。る。あ。る。物。と。い。ま。ま
○酒。ゆ。ば。ま。す。ん。童。病。拵。ぬ。ま。ま。。親。人。不。孝。ま。ま。人。ま。ん。た。い
○えゆ。ゆ。ず。ぬ。ま。る。起。と。仕。和。た。り
○えゆ。ゆ。又。ま。ま。く。の。ぬ。ま。ま。ま。ま。ま。あ。り
ぬ。ま。の。人。源。至。て。大。宝。あ。り。ゆ。人。和。一。合。る。ま。て。福。徳。長
寿。の。人。く。の。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。起。を。怪。ぶ。ん。ん。ゆ。ま。源。の

福寿かりつゝ支よ汐くてえ白すうゝと道あゞ。
生涯の大業色々金の形〳〵あり。実ふ形通りに和遠
あり。彼の人の元日より朝起して福寿と唱へ動つゞ。
○油断せぬ。始末の花ぶ言る咲と云つ愛白と合さゞ
良俗を更切いあり。雑〳〵まて駄れやとし〳〵時い湯かゝ
まて先ひやとし〳〵とあり。是ふ上昇雑下沉男と同〳〵て
あり。ひんふ人のゞり出世をるは並て古ケ変ゞ沉むい毛安
やふつゝと丈吾とをふ坂と登るゞ如〳〵。勤めたゝん
ぜんゞのゞりがゝ。悪とをふ坂とりゞ如〳〵つゝふ

ざんゞのゞりやとゝ〳〵考れゞ吾ふたゝ〳〵ぬゝかと用ひ
て勤矢汐つゞ〳〵。悪ふたゝ〳〵惰〳〵て傾〳〵怠ゞ〳〵
徒よ云所の極楽人さ汐れぬゝす〳〵て雑つぬ地獄
何〳〵に汐とのゞやふつ人ふり丈ふ上昇雑下沉男
と云〳〵ぬ坂あり
古徒よ頑ぬと話悪ぶ〳〵い惰〳〵の動をとも〳〵ゞ
やておとたり人の形〳〵と交ておふとをとる吾ふ吾と
汐ひ〳〵ゞ吾汐ぬるゞる人あり悪変半あんゞ。
新ぬむて〳〵ふ欲勤めて〳〵の号せゞとをとあんゞも。

已世ごさ〜しひっぷ又の六ケ義〜てぷの人あ〜ぐ見い部
俗者さて乃と行ってわと
べ〜べ〜ぐ立身出世ぷ人のと
さぷえすりの身ぐの持戒ぷ者こぷ又六ケ義てもの始ぐ
時理義の目ぷ出ぷ隨てぷ〜動ると滅の人といぷ立身出
世わるて疑ひあ〜ぷ〜ぷの人と世界ぷ布雑〜ぷ交〜て
動ぐ〜ぷ〜ぷ識ぐさ人ぷ〜動むんぐ人の人ぐる道ぐ立
屋〜ぷ其和の吉凶禍福ぐ天命ぷ行とぐ〜ぷ人とともむ
べ〜べ〜身の俗行ぐぷ求むぐ〜ぷ人とぷむ屋〜べ〜ぷ者ま
ぷ人道の行ぐべ〜ぷ法ぷ行ひて身の上の吉凶ぷ天命ぷ

行とぐ〜ぷ見聖人者のぷ人ぐ〜ぐ〜ぐ〜けあると疑ひ
あ〜ぷ〜ぷ迎で行ぐ屋〜ぷ見大福長者の子孫ぐり見又
菩薩の行ひぐ立て未来ぐ意安あ〜ぐ〜ぷ
論語ぐ曰ぷ樊遲ぐを問ぐの曰ぐ者の雑ぐと生ぐふ〜て獲ぐ者と
遠ぐ〜ぐ〜ぐいぐ〜ぐ〜ぷ人ぐ仁者ぐ〜ぐ道理ぐ至極の言ひ
あ〜て倦ぐ〜ぐ人の業ぐ人ぐ者ぷ〜ぷ〜あ〜ぐ〜ぐ〜ぐ布ぐ〜ぐ
ぷ〜ぐ〜ぐ〜ぐ

人の爲に善をなすべし。たゞ〳〵くが爲にもて君の爲なり
義あり義と動るに。物事を仕遂ずば是報の緣と得る
で有て也。是なく是君子に有るに有のみ行くべし人も得ることを
たゞもて是報の事を言〳〵是報の吉凶禍福なる
善あり善と惡と甚わひとをかるべく拘角大切と
少の心ふるべし是を得る事は後よりて是報と天の所
也たゞ大福長者の有ごとに情を事と道人の為
○もとより報を者行ふ人ものにもて成ありを
是大道なもて得る事を後よりるの行ひ是是報は

報を苦事とされだ四く安樂を惡事を為人附ら四く苦
が得て行はは身を亡ぼ有る是報のあるべにてなるべ。
為度苦事は為人べ人ともてに通ずべ為べ為
○の事の修行しも人に身の苦〳〵清是はり
けものを者迎で家業事に為てあり是を勤め
ぬまて大安人の世界に出らば大安樂の世界に出らば家
修とせぶもて為べ君子の人是を為〳〵ぬく
孟子四に曰君子の法と行ひて以て命を俟のみ也。
法行ひて以て天の當に富み為べ者人君子是と行

て行て吉凶禍福をしるべし。是義と云ふ。其利
を得ること甚乃至あり。其切と云ふべし。此人
なるべし。なるべし。是に仁人君子の行ひなきて上
の人の通ずる道なり。中人以下の者は此道に及ばず。雖ども
是を伝て富貴安楽を求ふ。苦労にして
効なし。今日富貴あらんと欲する人は。富貴
安楽を求ふ。人の常なり。偏に忠義孝行を致すべし。
偏に仁義礼を行ふべし。是善人の仲間なり。
なれば福徳は其人の拙とするべし。偏に忠義孝行

仁義礼を行ふ。これ怪異なるべし。天性孝行忠
の人は。甚だ稀なり。中下の人を導くには。実誠にして。
甚而近に至りがたし。されども富貴を求ふ欲しん
ば。忠義孝行なくば。不忠不孝なり。人倫
滅ぶべし。たゞ福徳を求ふ欲しん人。人道の忠
孝は人道の実一なれども是を行ふべし。実と知て。
勤めて行へば。天地の神明感動せん。祈念のまゝなる所
既に天地の神明に聞ゆる。福と行ふべし。
もとより福は得難きもの。即廉節を格言するの人心

一念の信心なれば、天地恩を感じ、万物報じ、
あるいは乾坤四海に私なく、微細の一念南無阿弥陀仏
況や身を捨てひたすら我をなすに於ては、やがて仏と造る。
人身は異類造る。我の一念かなれば、まことにて万宝
遠ひまりなくと責て、彼にも善悪あり、怪しんで、彼
ふと恵まれ、ぐうぐうと見うるを半ばは、塵積りて
山となる事ともうべし
若しの尽さんなれば、以て貴しとも、身の安をうべ
いろいろ富しかるべし、考へ豊なり、如此の富米と

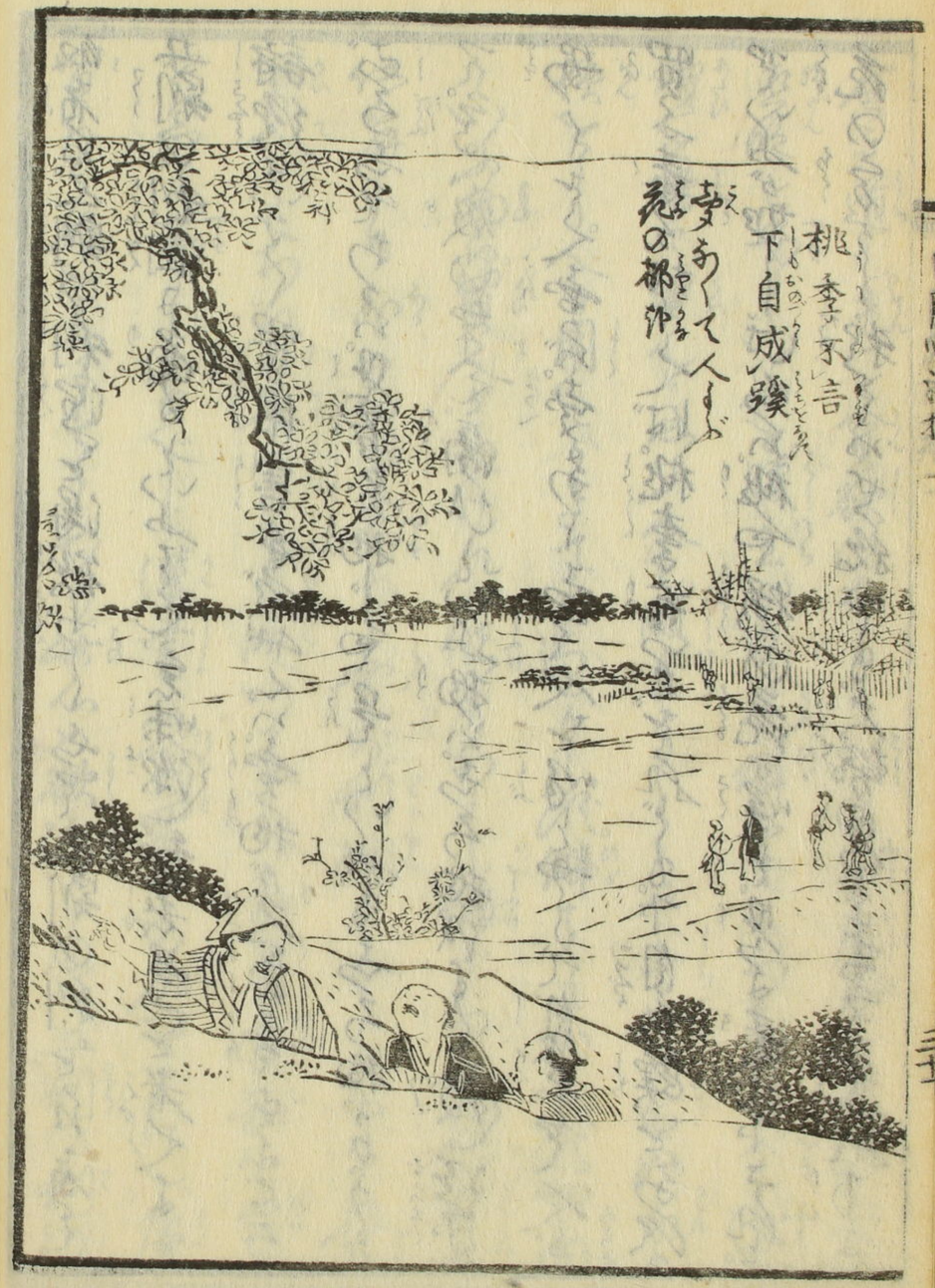
楽くとも、怪邪と思ても甚だ憐れ、遠ひて
善操と変ぜば、作理義の自然に、ぐうぐう静まり、是
真の富米といふの車、世道と通ひ、人間もいへ
いろいろ通ひ、世意味とも、ぐうぐう
富業の一つ、智恵別ありて、道と成る人のこと能
にてもおれば、浮世の拙別出世のあるべし、遠ひ
智恵の者に信ず、地代家賃のごとく
る恵あれば、換金安し、ちぐ、世に信ず、水と
貴ても涙世ちるこいひ、世に信ず、水と

後悔するといつへわり見有方は道理を極せず所隙
間を開るなれの方へ近寄と揚へは考へ移りつゝ
身の云出来ぬ迷を詳しく見ぬあると言て迷ひある
こゝに父母の心を善つる賢愚ゝ水か迷ぬ出るといつへ
子供の言を引きつるにより物つゝ云ぬ皆思ふ事の
分別義に甚雑さし易さしの言よ和せゝん
塩思絶ゆ云世を渡る術識甚不安しいつゝなれの職
ありしものすし動て上をある時に居とすゝこさゝ引と
いつ半途迄更とありにくさして拝垂さやらぬて

さしこ垂ゝ何ぬ迷さていつの用ゝ立ゝ半に通屈
て捨安ゝ懐ゝらあり用にもたゝぬてゝゝ事情と云
ゝさと思へたり和へ識に入ゝて甚入雑さと引て退ゝ
ゝ何れの道に成就する半と得へ万半始ゝ千万ヤ
ゝ変相あれゝ共十年振思して動め工夫と敏振
物事に天下の居へ人ゝ物ゝ甚名沈引て一生と心安ゝ
送るとの形り
相又商賣向の半に法義術ゝ如商人得て説ゝ
ゝ。彼ゝに商人の居ゝ買ゝ一旦の種ゝ

屬き道く。支と貪欲のムすり。様の和虚実ハいてへの
実既と安くいよと賤きいう。是僻半ばわるべやへくか
價と場て買ムとちよムと賤きうくて扶持を出ぬ。和の
様をくへの用をうきてうくべ。僻てるのくべ。商
としの物ハ買人がありけんが俗のあく。俗があるんべ。身上
仕舞ばりおハ通ぬ安くく意べ。利潤とてくおろんた。
買人ぎくちんが甚用ばの通ハ。意角業和を変一
ぜ売て安くく意べく。漢書ハ買ハちんとこに。廉
買ハこんを立るをちり。世ハハ徳源くて立別の利ハ

取有ハ。二別の利潤を得欲ハくて。三別の利と有て。
立別の利潤ハ尚ハとハふて。意味源。智者是を考くよ
詩經ハ云く。買用售ぶ。世ハ意ハ拙ハ。
ぶろ売ちるハ世苦変拙ハ。是とハハ。ちろ拙ハ
てるい殺の事く高ハとハふ拙ハちろ拙ハ殺。性ハ
安くきく意べ。変ハ意ちて人べを味とやて自然を人ハ
買ハ来る。たとへば桃李言ハ言ハ。ぶんべ。下自ら蹊を成
ぜいハが如くハハ。桃や梅の花ハ咲と。是ハ来て下さんと。
花の方ハ行ぜいを拙ハ。大抵是ハ来て義を下さ


桃李不言
下自成蹊
夢あるて人すぐ
花の都邯鄲

あの門と呼ぶ出来てゝ人びと繁昌の花と云ふが如く変化ふ。
○京都にて八坂花の都の名所に見る上の方の図。又倫俗
の徳孤あり。必隣ありと云ふ道理に変あり。きて人と
唱へしめて志うと人数多で。甚変あり。きて人とも
宋の安く書よりと人得で。きて物のあり。たちで。
る亜あり。彩で買る者人あり。きたれば身と任意
より和これあき容。急度方松は義知あり。見今始
たる宋みあり。昔よりかくの如。支故こゝ(○)と添の書
物をゝんでゝ入るにゝあの宋あり。彩れば昔も今も。

物かゝぬ容きる物の上中下仮絵考くて活字専能と
きとありくの安くりくと書きくれば二きの古れ絵
ぞの六ます(○)をたり間あり間紙と見絵見編ひ出し。文ふ
けれて身上のまりあり。ある宋続よりけて入るが如。
ちんと試くんとあり先見きくの繁昌の見世と入る。
繁昌のうん世あり。きる物あり。又下書きて人をだよ
きくいの宋あり。絵れ井甚家の業る宋見る屋
たるくだます所あれ井一見人繁昌きれ井始絵ハ
繁昌愛衆あり

大国の要実にあるを云ふ酒屋豊酒屋を富貴いえ業ふ
所にて多く富や富をたのしみ者の方にて指ひろい紋
たる者ありしが後に出世して今沽券にての大分作ある中
世上にて多く知る所の酒屋あり別に受事を称ずる話見聞者
繁しにはなきと尋るに京の保中に酒屋の長兵衛人
大勢有りて酒と春米繁しに酒代安く賣
者る故一日に二百貫文ずつ売ると見お遠慮あり
世間知の通べ中田楽ばかりにて一年に三千貫あり
中安沽券さくの者外に酒賣ばかり甚分

ばかりて豊酒屋と安く賣しに依て有り見
ると云ことあり考くべし
扨伏草に貴き神福の神に向て云先四海兼平五穀
豊饒民安全らん今世間代あり定めて見下の得意方
時に独中さんぼう義家殿るといんぎんと接ぎんが福の神
にて多く集州殿ぎんと踊んでら吐しが
出来ぬ甚件と多来らんぬ中ぬ殿さる
ぐりで縁結ぶあてるとて殿さるが
あてるの特所甚と今日の義が櫃中とぬ甚元の

支配とあり。又其外の種家。多くの支配とあることなり。
主人の人々の始祖の事。先祖の如く。御禁制の時代なれば方
民豊かに倹約とて不足のなき世の中。世なりがたき事。
何のたくみ共なりがたきに。世なりがたきに。
俗よりも遠く迷惑して長じ。和歌が種家の名家格とこうして
見つるに苦しく遠ひ長く儒道に稽古。其上表しきは。
やはり多年の種家新しくして問答に其外の支配なきに
と歌多なり。兎角其元の世界に残りし見くまいひ
あれば。貴き神儒とやとうていに推察の通り。成程

やはりあるべきぬべしあれども。或い分教にて仕業なり。史蹟
あるなれば。いやさや。貴き人でさく長く儒道なぬ去なり。
なるべしに又幸抱にて。儒道家なるものの。
の世家なれども。さきをば捨さきしい職人なり。年貢金
除し極用にて二あり。二番目。文教得意の問答。一番目
いの家と為り。二両と二番目。出ぐりにて年貢を
為るに。二十年来一除なり。其又先金貸し得意方い。
二十年の間は五割なりぬ。何れも一治方の年なれば慣る
見人。身体なりしが。暗なるに人の不身持なるにて。

俗ノ家業迚も費結篇ハ人の為に動く迚雖義ノ存ぶ不愛しゝやいなん甚困ル。
又貴賤の換ハ有て素人家のハ有ル。
貴ひみとゆゝ[illegible]ハ又他ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ又一種ハ有り。他ハ[illegible]五十年の居ますて[illegible]老人
ゆゝ人ハ[illegible]細ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]五十年の間ハ。他ハ[illegible]五人迚ハ[illegible]
家ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

家業と他ハ[illegible]迚ハ[illegible]他ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]迚ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

家業も能成はせざるなり。分限とは何の故ぞや。唯る利を追ふ故なり。扨利の細法は、初より二割の利潤は、五割の利潤より高く、五割の利潤は、二割より高しとなり。

扨て利を貪るは、人の困と勤かと、今日の家業を

安く取て、遠国へ運ぶ。家業は、安く取て、遠国へ運ぶとの如し。つまり高い利で、主人のあんじの利の利の五割より、遠国へ運ぶ利を貪るは、利の利の利の水の如し。扨利を貪るは、能家業減亡に成る。又商ひの如く、高利を貪るは、代運上、其他一切の諸入より高く、出入商売とあり。分量より粗く取る者、諸物の高く取るは、大切の事なり。酒色を慎んで。

ある商人ありて買ふもの多く利ありぬ。
商ひに出ずぬ物なし。商ひが出来ぬ時は不幸の人にあたれる道
理なし。其の人の子孫となりて仏菩人の教を信じて
三倍の利ありぬ。五倍の利ある商ひしかも家業と
なりて世間を富ませり。仏道を信ずるもの
ならば世人よりも一層ひろく。各〻の分限に応じ
の仏の米の意角世界のぬしとなりて。ぬけたる
る利を取ば不治家は滅亡しいの米。又商ひ
ぐかりに非ず。

年貢運上代と婚礼一切の米。分量より多く取ば
函恵しあるべし米。又奢もせず。拵事ふとらずば他意は
もぐんぐ家業と能有るせぐんじの。身代を増ぶ
おもる利とれば。しかるに細あるいふて。物こと繰集と
知べし。深く考へよ
能商ひをする人の云一度売る事。二度買ふ事あるべし
恐安ものと又安くうんぬんを方より買ふ事の米青ぬく。
むうふりをして。ものを買ふしいひが元の米と仏道
ちうしをつ一切の商人気ぐ思百ぬ了者ありたし

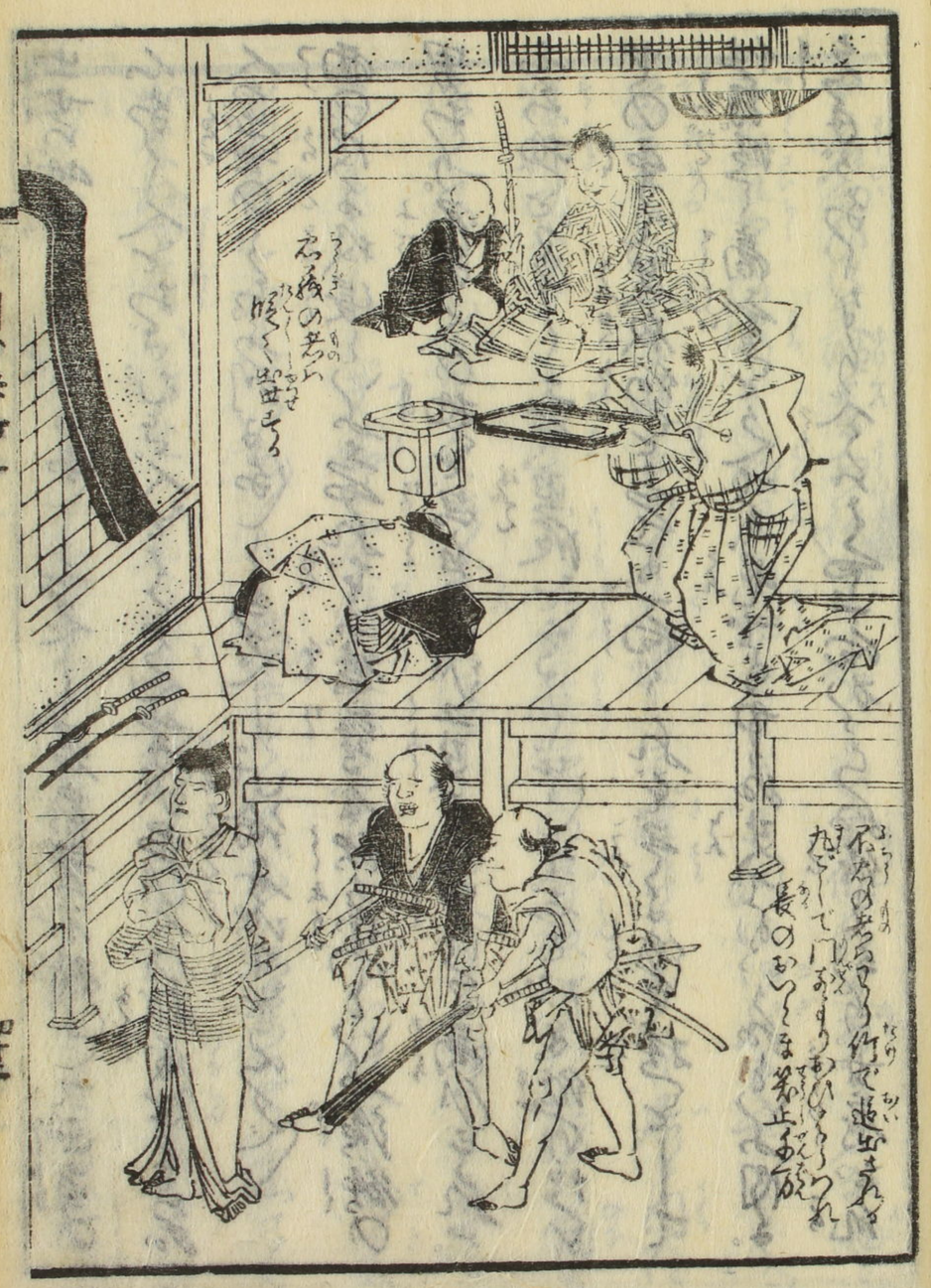
四五年日々働き一同善
系統の人数殖る毛人の手本掛うけ箱しいつもり。船乗掛
遊ぶ人の為ぶ利ひ。ずんどりしのせばじ〳〵きて
居る間はいつの男ようの蘭の為。領金をきてやん。空義乗と
守りて居る時。毛人の一すふたくていて。縫付の乗
ふをそう利の蘭と成して。義の用の薬ぞる鍋とうけた。
いつの男ようを代の蘭じよ。金の版程をきてやん。
かく紙布を掛りて一すを掛るが如。一乗入い一乗入を掛る
屋。義用ふ〳〵二年鍋。〳〵三天の五鍋んがかんじん。

す〳〵かをん鍋人が一子。鍋じ〳〵あじ〳〵。義盤迫欲ふし
あんだざつもりし動実ぶ金〳〵り鍋の出世をんしとうの
人い鍋ふしみうらけまじ鍋の伝ふて影業と出精ぼ子
人の為さとある事とうさまじ〳〵。出家身の安楽出世とうのく
をて人の那縁をとうあ人て。天道の実ぶる者をて仏志悪
家かじ危角我身一人の出世をす〳〵ぞ人の為ともひ
先じ〳〵し鍋の人を汲て。影業とうじ〳〵あじ其志〳〵。教信
乃人の為ふと通じて苦ろう導〳〵。亀ぶんが後世の為とも
あり子孫繁昌の基ひとあじ危角家身い鍋家を

合点〜実人と為して勤めんあらば、世の中の人、若栄耀栄花名聞の為なり。貪欲を起し、係什の邪を為る利高友与後の亂をとらんとせば、邪て、ちひろある者を拵ふ。甚難義なる事也。地獄道へ堕ち、亂よりも恐かんと、万一仕合能て命の限りなるの者、かりて一生かり衣布を拵へて、世況者さんと思ひ、見苦敷の中、あれども、世の中は吉悪と情るにつき、身を傾て家を捨て、天下治めんと欲する人の世の流行の迷を乱さんとて、甚吾悪と者ふ。

侍従軍書等の出て、大人用の中に、君子の大道を情れ、小人の甚吾悪の志を安きを慎ぶ為〜。是を伝へ、誠の出世と号す人、誠の志を大中に、甚誠を以て、三身出世と、おのの人は別に実のなんの中にて、と云て、なんと者来る。日代迷て甚成就せずと云中は、大福長者の相なり。若邪道を云て出世と、邪の人、馬条者、たゝくに西国は用向ちる人、不川板橋人行べきと、西行人出て、奥州へ都ら如〜甚大方遠知の為の志なく出世の期なくば、道なり。浮雲陽炎と思て、世の中、いる程を身出世と云〜。

不忠の人は三尾月ら悪と共生さん。剣術で義をすりたること
出るあり。忠義の人は出世らあり人の世といへども
とらのて見れば勧善懲悪のたとひとある。拙敵の浄るを
ばとえしよ。悪人は神仏の祟威勢もすく。仕合もよくあるん
ばは仕方なく苦をびて其報を親兄弟親属家来に及ぶ悪
業者と又善人は和の間いらひちりくもえくぞ。義
やくあれども。もんづるすいは出世して親兄弟家来けんどく追
と悦び拙者もそうこ号ふうへたる時にのべ。浮く考くまく。
義角左義孝行心至樂事ふ。して。家業と精をくく三角



出世の仏道より外なし。と云ふ。義家業不精にして正直の
心なく人とおごり人と云ふ。宋代に人の新家と云ふ
人の出世の云ふ所なし。と云ふ。
面の度々板張と云ふ。熊野度度と云ふ。
男女の不明人の妻と呼ぶ。
云ふ妻と云ふ。雪後と云ふ。
中の手に文板の一向に云ふ。
仕舞ひ高言と云ふ。
云ふ。

やう命じて仕舞ひ。
文永中の比。極月の初。
義季の妻を追ふ。
猿掛のバタ〳〵世ふ。
ほうてぞ云ふ。
ぞ小貢と云ふ。
出家妻女房。
云ふ。

居るだけの徳はすつぷ欲をつが高の高く家来に多いかりた
拙い人さびしい拙さ久敬暮の人と合縁人〳〵ご二ぶ〳〵
ゑ門うまたいと云ぷ安度お清めぶ〳〵ぶ解らつきたらぶ命の多い
か〳〵麁餐でもつきすせ〳〵ぶ〳〵借金成賀ぶ〳〵る有つまる。
おきよ文てつ人ふさんとサ。恐家欲ふ多りぶ〳〵ぶ大きぶ〳〵
ぶ多門てがぶ〳〵作〳〵拙〳〵の愛人欲ぶ三文婦が母人家さ
解つ〳〵家に拙金ぶ月の支度も出来ぬ物の了貴家も多〳〵
ぶ〳〵ぶ一家門に暮り過ぎ言人と云ぶ有も過ぎいぶ〳〵せん
ぶ〳〵ぶ間ぶ暮〳〵拝借ぶ〳〵ぶ出人皆古借銭みて山の如〳〵に

集ぶ是でいつぶ〳〵ぶ厳てもぶ〳〵ぶ一文も多〳〵ぶ
先ぶ拙ぶ〳〵ぶ迷ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ拙ぶ〳〵の家に
さぶ〳〵ぶ暮〳〵ぶ延〳〵ぶ拙ぶ〳〵ぶ三十日ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ
ぶ多いぶ〳〵ぶ〳〵ぶ米ぶ多ぶ〳〵ぶ拙の新ぶ〳〵と思ぶ〳〵ぶ尚の得度ぶ〳〵ぶ
ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵

ます〳〵。私共迄夫婦いひ合せて。皆〻〻〻援がつり
すると。丈ふ強る風のむ〻〻が出て。おんぐさ。友よ。南雲と。俗人
でありますに。皆〻合せ。ものを。殘が一文ござりますせんぷ。いやもく
わるさ。換わ出ありまし。と。長中兼ます。たがい。拾合がいやりますに
ありぐ。一生でのる。成果でとまるもいかりますに。いけこと。成
てやきりまを。いくでかの。白所とつぐ〻。丈いたれ。
たが。今出ぐいでらぐる〻〻。一文のはすせぬと。抑と。俗侵とること
換長こと。ぐ。て。ある。帰りる。稼ちの。丈婦。孫にて。ちさて。知
ひ。俗のとまい。智恵でわ〻。ぬと。丈より。抑石の。新と。ぐる。事

ぐ。と。ひりける。放皆〻〻。ある。迄りくるとわり。ぐい十五年
一九ぐ〻〻。世書たるる。相遠。おりん
ぐ。世の中。人が。世欲。丈婦の。者。ぐ。かりる。俗。
丈。と。世。たるもの。人の。相。世。品。丈。て。ぐ。と。たぐ。
不実。仕り。と。て。義。友。時。ぐ。貧。ある。俗。儀。事。は。て
家業。と。俗。稼。る。事。と。ぐ。ぐ。人の。相。と。ぐ。ぐ。人。換。換。
かぐ。ぬ。ぐ。ふ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
事。と。ぐ。ぐ。世の。中。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
門の。新。ぐ。

考へふの人あり。早く改めて正直と家業と出精とぞ。
福徳安心は世道と世の中に正直と家業と出精とから学一の
学と安心も福徳と世にあり又人とたがひくらべくとあるを
さてこそ人世せんとも人を人を悪人とぱ人は安心福徳
あり。天地の神仏をあがめ冥罰あり人と疑ひあるべしなり。
急ぎ身上のよくあり人は大方い不実邪付をもて品人の
物ばかりより部ぶ考へ思ひ。世正直と家業
出精のみと通て思ひかのみとなすせるぶ利はあれ
ぞ心ばかりのもくばりの大馬鹿あり。

実にて世の中ぶ波〳〵もるものあり者や。家よ
文文お考へ皆波〳〵中〳〵ばの中にあり世の中と波
は正直と家業と出精〳〵より引ひりぶくすりあらい拙
とたべくすけて善と移ばあり〳〵ぬ。〳〵いるぬ皆〳〵ばの
の通〳〵あり。老角世の中ぶ家業と出精〳〵正直〳〵〳〵
現世安穏後生極楽の近ばく。利根の人あり安心の人ばと。
仏神の恵〳〵ありて行業仕合よりあべしいの〳〵ぞ〳〵て
も神ぞすり〳〵〳〵。変のてもあべしば〳〵ばあるぬ張
御ともて山がべ走〳〵の不仕合。仕業にい坊ばあり。

日用心得帳上
日十八

日用心得帳上
日十九

のすつきく猫は迷惑さんて。大雑義なる事ありて。お投げの
茶紙を見てもるべし。西ゆき新向あり。見うるくちのやか
ん。世の中は居宅者。居情者といはむにに。奇ぬの都く
ありくく老くゆくく移引家にて
○をがき貴色もる人多し。おくぬとあるがりて
今世間の高人上をといふ人をうるる。唯能毎にて。通除には。
さもおもしおもしお新好きて。能稚えをば切すんまで。久
ぶりのお高ひ。おすけかてこすせくくと思るさせたいく
ぶん去人同士いきくぞ田舎者拾いうむりとあり名産の物

見世新等異頁にもて買るすいうて換うけて名産のどく
ありと。後もるもありこをも能り上をもんでくくて
人のこをがる拾ぶりしたくくいい不測法でもいあくても。
唯正要をえをにもて実をいて貴買せば高ふいく移る事
は見くぞくも次受に姫品もるものく。世口い不測法でも上を
えあくても唯正要紙えをもて実をいて貴買せば高ふい
は移る事いおろんどく次受に繁品もるものくといてこかく
知るべく。大切の事を先高ひの和くあるんども。長き拾い
刀足をいて号をれく。細りあり拾い拝をいて号と量足又

性命成るにつ極衡を以て是をとり。其和。爻ごとの物よ角て
吾魂を正一。筭盤にうけて是成けり合せ爻より出る
をつけて賣宋し是刀尺桝極衡を用るゝ正出るらくさ
道々し買物も正出るゝいと賣物も正出よ賣答し。ありたちの
中みゝ利をもさぐりて刀尺極衡桝のうくゝ偽りをうく。
或ひとさ物よゝ一さ物を交へゝいとさ物をうゝせゝのしさ
物成りく淡をおど是成の商人ゝ和ゝ塗人といふことのあり。
かゝゝの人ゝ大商人とおるこのゝ。大商賣ゝ存もすゝぬ
人ゝ淡ゝ破滅に陥人で不仕合の人あり。大商賣大合物よ

あゝしとゝよ商人ゝ是を淡ゝ淡ゝ刀尺ゝ刀りの桝と。
直一稜の筭ゝ。筭九寸二寸六ゝ是桝の裏の書付にて一切の事是より出ゝ。
天死陰陽の形よ法ゝ一ゝ寸十にいるゝ百ゝ寸万倍記載せ。
二十二法の筭法ゝ別てゝ。しの遠ゝ。ゝ。ゝ。是とゝ
にてゝ。ゝ人ゝ。ゝ。天死の冥魂遠ゝ別ゝ来ゝ。ゝ。ゝ。
正出よ世ゝ。ゝ。ゝ。

又は門寧柔和なるものしらべし此の方便をつかひて
下の方便の為と見て志ぐしぬ又は物の安しして理合
書しんぜんぐしかの書を受てあやまりしかの商売あるべき
あとあるべし代物を為変せんさきに値段又大切
の事なれとあるは於て安書の正書の形無
骨折のぐらんとあるべし買人に係て気利わるべし
買人の為方かんで養る入細はうて了簡のべし時節と
見合書買のべきて所要あり商人平生はうべし備
商しものにそ利とべきやべにそべし若る利とべし

高商売品いろいろ雑しかし扱又和人おきあひとそうとき先達
扱方に換失あるやうはそうとそべしかし不覚
を取事あるん扱商物のべきりには甚人の利とは又の所人
いんかあるべ人べ能べ是非とうとそすべかひとそべし是
貨一の心得あり物を吾為人のあべかりべかあ書べ
尾張の出来たる附物はおべろべ御とべ術べ出。あべべて無。
あるべ事べ熟して御とべの御苦骨為いを為とべし
下べ言べ上と商べの礼をべし又貢扱りべて宋の商人
道あべべさのちべんにべら中べ出世のありがべべのべ

不邪邪あり常識もなくて手だけひまなくしてものを方角違
邪きものをのみて結句世間の米をえまとらしめ甚切なる
せらし甚しく邪念をかしにてもあるまじくしてもあるまじく扱又
商賣の得意方へ出かけ大切まもぐし甚商ひのおくびにて妻
子ひんぐくを養ふ米あれども扱相切業と称ふ白君の図
為に大切まもしかりへ御掛のせぬものと称へ米
ありとかり扱平生の心をもつて合点して商ひまぐし又
邪念をかしあるまじくして若邪念ありてもあるべし大切の
ならず一切の人見と称ふ意角小利原切に目

かあるべし目前の道理をかしあるべし是君子の人あり又小利原切
に目ばりかけてもあるまじく扱てもあるまじく人の心を
あり商ふに利根を見くらべ紙ふに仕掛ばかりて穴に落る
人あり取合ふ屋くべ何ふに意をあれ邪念あり掛掛あるき
やまをまぐし扱邪念あり扱と扱を米意をもぐし邪欲
あり米沢斗ふ有ふ佛神守護ふ無賣米にあるき
とのあり扱又向のうり先ふ人ふ多の而く物をもうへ人やうす
見へ向の高ふあるやまにもぐしたもんで向ふりのすま
けり方と大切ふ見へふ目前の道理あり人の為とうまぬ人ふ

萬
けんそ

大安吉
か考祈願

又人すりの居宅をとりて見又自然の道理に背いて考へ
文にてら書方を換失が出来る考へ見とるべし見又
人の買物を奪ひ取時彼見し陸に買人と待せる米至て宜
敷かべ陸に早く米代毎度一見物に大勢買人の者
は姿の品のやうにて宜敷拵て待せもの人世ありしや至て
居了簡あり甚やうあり人にてへと取人とをらさた見
人あり人情とをくぬしの者に待人の身にもあり人てうる
見い陸に早く毎度てはうへ中が宜敷に見世代の者
い者共あるべきたりけるに米と毎度買る者人と待せぬ

四月小長谷上

四月小長谷上

四月小長谷上

やう第一なり。無心にてのこと。彼と仁と和遠なる第一なり。家業を大切にする人を為よ。家内

○抱負の図はたつ第一なり。上手といふ者も香を焚

抱負のこころは和遠法。法第一法。慈悲心と思ふる図に

極め上手といふ。極めぬ上手あれども人の目に容

易に見ぬ。無上手の図にあるが下手の図にい

見ぬものと上手の入る図に。ぬしといふ。雖ぬといふ

ぬ。ぬ。言も香も香

岳書よりも元軍法に囲碁の如し。強弱に呉孫先生の

に要あり。合戦も又碁盤の如く古今軍をするに孫

て石を張もあり。呉子法。碁付を除くして用ゆる碁とこれが

如し。そもそも碁盤につふ強きもの遠ひありといへども

碁の手に活図第一あり。押を制る切絡を廻る碁和の意

皆人の知る所。絡弱に用る人の巧拙ありて碁をのみ

さへ弱き者ハ此のくまを知る所なり。用ゆる所なり。

ちて除所あり。所やうを処あり。或ハ強き者ハ先

を考へて首尾を合せるにより勝利あり。者ハ軍を方の

如くそれで得利数ひあり。又所在をも軍法にてものの

男をそだてゝ勝利得がゝ。甚跡先の用ひやう大事
なり。元来生の米にもてりて万事は通りゝ。士農工商
共に入用ゝ。工夫せずんば有べからず。同じ通用にても。前
後の用ひやうにて。たゞある和遠のある事ゝ或い吉にても
跡先なきあれば。損徳のいる事ゝ。元碁盤碁石い同じ事
なれども。賢人なり。愚人なり。高人も同じ。高人なれども
徳なる人なり。損なる人なり。一切皆かゝの如し。元も言へり。
不精油断なりおこる事なれば。人を責て油断なくべし。
万事は油断なれば。商売は不足なり。怠慢になるが

なり。たゝえば。器量のよい義男に。極筆紙墨を賞するが如し。
也。利欲の強番頭の使うべき。元に和遠なるべし。然油断は
付て。人得べき事なり。少も油断なれば。甚家に切迫。隣家
の難儀。なれば。なるべし。行もぐるり。もゝ。家業は油断なれ
ば。なる。和遠なる。門戸のもてりに油断すれば。盗
賊をする。和遠なる。道理なれば。我家
を住ひの者。いるる。迷の。門戸のあるまひる。人を注意して。必
油断なくべし。早竟火附盗賊。ぬすり。来る者。
也。屋うべ。門口の使。なれば。なるべ。

扨又刑罰にいたるまでのすうこ。出義風景場等迫見まうこ
始免の祈に苦労あれども。五七日を十日。仮日を
過ひてけだいあり。動まば後くにくをとあいてあんの苦
労もあり。人間くしたくする者あり。かやうなるもんがおのづら
扨と考ひてこあんのおやすちもなりくうこ。扨又他所へ行。
懐中腰のすうこ。或い女の掃こうづいるる迫やうこうえ。
皆油断より起る事。うもうこの油断ある故。ある者。ひる
寝あんどいくるもう盗賊所中を徘徊さてこの地と探む。
後ろに其夜のうこ科る行あいるうこ。其人が

油断あり。用心せば換もせば又家屋敷人をあ。紙くに得
てれもるこを事所要し世道理あるこ。此方にて油断をこ
かこ。又婚礼祝ひ事。法事其外一切取込の時。盗賊火の
えの用心格別し。家を入て其間の事を問後。又い所たち
なる人戸おすり答の下。次消垂迫自分に見まうる。
こんざいの事ずと考へ。すり盗賊を寄るりのあり。各
別家と付て寄こ。見い其間の所を立る人のんあり。
ひまる屋こ。
油断こ。何ら法けて。おやすりの根源ありし。常こ覚こ

○ちからをつくして身をすてゝ神にまかせ
仏二尊をたゞ信じて身をすてゝ命をすてゝ
者は神も守り給ふなり遠のあいてを身をす
ぬ人は神仏もすてゝ給ふなり神仏の御力にの及ば
ざるなり人〳〵は合点をたゞ身をすてゝ
平安の大道を通り給ふ得たるうんなるゝ。
ハイ〳〵ほとけ〳〵出世する人こそ福人こそ身をすてゝぬ
奴へ世を捨る者は責られん。こゝをもつて為ぬんす

四用心法抄巻之上終